

HOMAS

日本語版

ニューズレター

Hokkaido/Massachusetts Society

北海道・マサチューセッツ協会 会報

No.41

平成16年(2004年)3月26日発行
北海道・マサチューセッツ協会
会長 森本 正夫

発行所 〒060-0003
札幌市中央区北3条西7丁目
道庁別館12階
TEL011-231-3392 FAX 011-231-3666
発行人 中垣 正史
E-mail:homas@siren.ocn.ne.jp

2003～新しい音楽交流～2004

コンコードカーライル高校ブラスバンド97名いよいよ来道 ー札幌コンサートホール kitara・七飯町文化センターで演奏交流会ー

当協会は、2003年のプロジェクトとして、北海道と米国マサチューセッツ州の新しい国際交流事業の一環として、コンコードカーライル高校と札幌白石高校のジョイントコンサートを中心にした訪問団の交流を企画いたしました。このプログラムは、マサチューセッツ州と札幌市および北海道の音楽文化の振興・発展に大きく資する大事業となりました。

まず、2003年1月6日(月)～14日(火)(9日間)の日程で、札幌白石高校ブラスバンドを主体にしたマサチューセッツ州訪問団114名を派遣し、ニューヨーク・ボストン・コンコード・ホノルルの各地で視察訪問、観光、ホームステイなどの貴重な体験をいたしました。この事業のハイライトは、何といたっても1月10日(金)のボストンシンフォニーホールにおける、札幌白石高校とコンコードカーライル高校とのジョイントコンサートの大成功でありました。両校の吹奏楽部生徒の若いパワーと演奏の素晴らしさは、会場総立ちのいつまでも鳴り止まぬ拍手喝采(スタンディング・オベーション)を受けたのでした。両校の指導指揮を担当された先生方に深く敬意を表したいと思います。

そして、いよいよこの2004年4月、コンコードカーライル高校の一行97名を迎えることになりました。(昨年4月来道予定でしたが、イラク戦争のため中止されました。)メインイベントは、もちろん、4月16日(金)、札幌コンサートホール開催のコンコードカーライル高校・札幌白石高校のジョイントコンサートであります。これにより、本当の「交流事業」が完了することになります。

今回のコンコードカーライル高校訪問団来道予定(97名)

期間 2004年4月14日(水)～22日(木)

内容 表敬訪問・札幌市内各地訪問交流行事・七飯町訪問・ホームステイ・札幌コンサートホール Kitara
合同コンサート(16日・金)・七飯町文化センター合同コンサート

北海道・マサチューセッツ協会関連イベント 2004/2005

2004年4月16日(金) コンコードカーライル高校・札幌白石高校吹奏楽部

ジョイントコンサート(札幌コンサートホール Kitara 演奏交流会)

5月11日(火) 理事会・総会・特別講演会(講師:米国大使館広報担当公使 ヒュー・H・ハラ氏)

6月12日(土) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ① ー三角山～大倉山コースー

6月26日(土) 平成16年度第1回国際交流ランチセミナー

8月12日(木) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ②ー大友堀・時計台・大通公園歴史散策コースー

10月6日(水)～8日(金) 第2回 名古屋ボストン美術館の旅～常滑焼・有松絞・白川郷・高山・馬籠ー

10月16日(土) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ③ー北海道神宮・円山ハイキングコースー

(未定) 平成16年度第2回国際交流ランチセミナー

(未定) 平成16年度第3回国際交流ランチセミナー

平成 15 年度第 2 回 国際交流buffeセミナー 記録 (抄)

テーマ 「ハロウィーン」を学ぶ～異文化理解のふれあい～

日 時 平成 15 年 11 月 1 日 (土) 15:00～17:30

場 所 新中国料理コム・シェモア/ア・ラ・ガール
JRタワー札幌 ステラプレイス 6F

ゲスト:

マーク・ハミルトン氏	(東海大学講師)	グレゴリー・マイレット氏	(札幌市 AET)
ハナエ・サカタ氏	(札幌市 CIR)	フランシー・マイレット (9 歳)	(お子様)
ジョスリン・エクルス氏	(札幌市 AET)	オライアン・グレイ氏	(江別市 AET)
リーナ・エクルス (9 歳)	(お子様)	ケイティ・ショプファー氏	(江別市 AET)
シャーロット・スチュアート氏	(札幌市 AET)	ジョナサン・クレメント氏	(北大留学生)

概要:今回は、アメリカの祭日「ハロウィーン October31」をテーマにして、日本の伝統行事などと比較しながらの異文化交流の楽しいひとときとなりました。ボストンからたくさんのハロウィーングッズを取り寄せて会場の飾り付けもしました。参加者合計 57 名でした。

東海大学のハミルトン先生から、「ハロウィーン」の本当のルーツのお話や子供たちも参加してジャックオーランタンの作り方を教えていただいたりしました。各テーブル毎に交流を深めていただき、帰りには「ハロウィーンキャンディー」のお土産も差し上げました。

ここには、紙面の都合上、ゲストのスピーチの一部をご紹介します。



[写真 : (左) 通訳 秋元成子さん (右) マーク・ハミルトン先生]

マーク・ハミルトン（東海大学講師）

「ハッピーニューイヤー！」なぜハッピーニューイヤーかと申しますと、もともとハロウィーンは新年の行事だったのです。日本でもハロウィーンは一般的になってきていますが、本日はハロウィーンの習慣について紹介したいと思います。

ハロウィーンはアメリカから来たように思われますが、その発祥地はイギリスで、セルティックという民族から生まれました。ハロウィーンは収穫祭と新年のお祭りにあたりました。また、この時期になると、亡くなった人間の霊が戻ってくると考えられていました。亡くなった人の霊が戻ってくる時、生きている側の人達は、戻ってくる霊のために良い物を供えたいと思うと同時に、生きている人間に悪さをしないようにという意味も込められていました。

ハロウィーンのコスチュームになっている幽霊や魔女についてですが、やってくる霊と同じ格好をしていれば同じに思われて、危険ではないと考えたのです。シンボルカラーの黒とオレンジについてですが、オレンジはこの時期に収穫されるカボチャの色からです。日本ではカボチャというと緑色ですが、緑のカボチャは英語ではスクワッシュと言います。パンプキンに顔を作ったものを「ジャック・オ・ランタン」と言いますが、「ランタン」は日本語で提灯。「ジャック」はアイルランドの男性の代表的な名前です。「ジャック」はケチで有名だったので、天国にも地獄にも入れてもらえず、提灯を持ってまだこの現世をうろついていると言われていました。ハロウィーンのカボチャは、パンプキンパイとして食べられています。パンプキンの種はバターで炒めて、塩とパルメザンチーズをかけておいしく食べられます。パンプキンは中をくりぬいて軽くして持って歩ける提灯として、霊が来る時に見やすいようにしてあげるという目的と、自宅の玄関の明かりにする目的があります。玄関に怖い顔のパンプキンを置いておくと、悪霊が入ってこないというわけですね。ハロウィーンの黒の色については、この時期になると暗くなるのが早くなり、黒い色は夜を表しています。

日本の行事の中で、ハロウィーンと概念が似ているものは何でしょうか。七夕とお盆ですね。ハロウィーンで、子供たちは「トリック オア トリート」と言ってお菓子を貰いに近所を回ります。この言葉は「お菓子をくれなきゃ、いたずらするぞ。」という意味です。七夕の「ローソク出せ出せ。出さないとかっちゃんぞ。」に似ていますね。

ハナエ・サカタ（札幌市 CIR）

ハロウィーンの思い出といえば、学校でとても大きな行事であったことを思い出します。その日は宿題が出なかったので嬉しかったです。学校から帰宅後、近所を回ってキャンディーを集めました。集めるキャンディーは大量で、だいたい1ヶ月位は食べられました。この時期になると、「Thanks giving」もあり、大変なつかしいです。

ジョスリン・エクルス（札幌市 AET）

ハロウィーンは主に子供のための行事ですが、大人も子供に還ってハロウィーンを大いに楽しめます。私たちも昨日コスチュームを着てハロウィーンパーティーをしました。私にとってハロウィーンで一番楽しかったことは、自分ではない誰かになれたことでした。自分の好きな漫画の主人公やスーパーヒーロー、モンスターなどになりきって楽しみました。私はニューヨークで育ちましたので、夜に子供が出て行くのは危険でしたが、それでもハロウィーンの時には近所の家に出かけました。大きくなってからは、ショッピングセンターに行って楽しみました。一番の思い出は、娘が初めて「トリック オア トリート」に白雪姫の衣装で出かけた年で、ショッピングセンターに行って楽しみました。

シャーロット・スチュアート（札幌市 AET）

ハロウィーンについてまずお伝えしたいことは、ハロウィーンにまつわる雰囲気のことです。10月1日からお店はキャンディーやデコレーションで飾られ、ハロウィーン一色になります。どこに行ってもオレンジと黒の色、幽霊や魔女のデコレーションやキャンディーが見られます。

私の家では幽霊にまつわるこの行事が好きではなかったので、他の家と少し違っていました。「トリック オア トリート」には一度も行ったことがありませんが、ハロウィーンパーティーには行きました。ハロウィーンの思い出は、台所に新聞紙を敷いて座り、家族や友達とパンプキンをくりぬいたことです。パンプキンの彫りは長い時間かけて相談しました。パンプキンを彫り終わると玄関先に置いて、近所のパンプキンと比べて自分の家のが一番良い出来であることを確かめて周りました。数日後、パンプキンはやわらかくなり、カビが生えてきます。パンプキンがどのように変わっていくかを見ることも楽しみでした。学校では必ず大きな行事があり、コスチュームを着て学校に行くのはとてもエキサイティングでした。

グレゴリー・マイレット (札幌市 AET)

オレゴンのポートランドから来ました。ポートランドでは中学校の理科の教師をしています。ハロウィーンで中学生が一番楽しみにしているのは、周りの人を驚かせることです。私の子供達にとってもハロウィーンはとても楽しみで、2 年前からハロウィーンの衣装について計画をたてています。私はフランケンシュタインになり、近くのマクドナルドに行き、お客さんを驚かせました。毎年この時期になると、学校の生徒も家の子供たちもハロウィーンの話ばかりで、他のことに集中するのが難しくなります。

オライアン・グレイ (江別市 AET)

私は江別で教えています。ハロウィーンは子供の頃、私の近所ではとても大事な行事でした。いつも 1 年以上前から計画していました。私の家族は裕福ではなかったので、想像力を働かせて、家にある古いもので手作りしました。パンプキンはやはり重要で、近所の子供達は私の家にやってきて、パンプキンを彫ったりデコレーションしたりしましたので、そのために完璧な形のパンプキンを選ぶことがとても大事でした。「トリック オア トリート」でやってくる子供たちには、私の父が骸骨の格好をして、子供達を驚かせるしかけを毎年やっていました。昨晚、私は友達と千歳の近くの小さな町へ、死んだ海賊の格好をして出かけ、お化け屋敷で子供達を驚かせてきました。その帰り道、道に迷ってしまい、近くにあった農家へ助けを求めて訪れました。家の人は助けてくれたのですが、その家の子供たちが私たちをととても怖がり、その日はとても楽しいハロウィーンとなりました。

ケイティー・ショプファー (江別市 AET)

私もオレゴン出身です。私は一人っ子だったので、母は彼女の毎年の大事な仕事のように、私が一番多くキャンディーを集めることができるよう、一生懸命手伝ってくれました。ハロウィーンになると周りの人に言われることがあります。私が 2 歳の初めてのハロウィーンで、母は私をピエロの格好にして顔中にペイントをしてくれました。そのとき私は自分の顔が一生このような顔になってしまったと思い、大泣きをしたということでした。最初はそうのように恐ろしい思いをしましたが、その後のハロウィーンは、母が車を運転して、街の 2 つのショッピングセンターにあるお店 1 つ 1 つを回ってキャンディーを集めてまわりました。それですごい量のキャンディーが集まりましたが、私は一人っ子だったので、あまり食べられず、キャンディー好きの父がほとんど食べてしまいました。

ジョナサン・クレモン (北大留学生)

ハロウィーンの起源は、” All Hallows Eve ” という、カトリックの休みの日からきました。カトリック教徒は、前の年に死んだ人たちの霊が、生きている身体を探しにやってくると信じていました。それを防ぐために、人々は死体のようなコスチュームを着ました。「トリック オア トリート」の習慣は、アイルランド人から来ました。今私は大学生なので毎年ハロウィーンのパーティーへ行きます。パーティーではみんながコスチュームを着たり、踊ったりして楽しめます。

平成 15 年度第 3 回 国際交流ランチセミナー 記録 (抄)

テーマ 「アメリカ民主主義の原点」を学ぶ～異文化理解のふれあい～

日 時 平成 16 年 2 月 14 日(土) 12:00～15:00

場 所 ホテル KKR 札幌 2F レストラン「マイヨール」

ゲスト： エリン・ボルカー氏 米国 (札幌市 AET) エカテリナ・トゥマ氏 レバノン(北大留学生)
ダリル・ジョーンズ氏 米国 (札幌市 AET) マヘル・サギーエ氏 レバノン (ご主人)
ビジャイ・ギリ氏 ネパール (北大留学生) シャーマ氏 スリランカ(北大留学生)

出席者： 36 名

概要:今回(第3回)は、アメリカの祭日「Lincoln's Birthday Feb. 12」をテーマにして、ジョン・ロッキューワシントン・ジェファーソンと受け継がれたアメリカ民主主義の歴史を勉強する予定でリンカーンに関する資料も用意したのですが、実施段階では、ゲストの国籍が、アメリカだけでなくアジア地域の多国籍の顔ぶれとなりまして、思いがけない多文化理解の場となりました。ほんの国際理解の難しさを改めて考えさせられる場面もありました。
ここに、ゲストのスピーチを抄録いたしますので、ぜひ一読いただければ幸いです。

エリン・ヴォルカー (札幌市 ALT)

みなさんこんにちは。オレゴン州から来ました。リンカーンと民主主義についてお話したいと思います。皆さんが持っているアメリカの印象は、自由の国、民主主義の国、人間の夢を実現できる国という印象ではないでしょうか。一方、アメリカは、伝統的な民族衣装とか、伝統的な料理、例えば韓国のキムチのようなものはありません。そして、アメリカは多民族が共存しているという大きな特徴があります。アメリカ (U.S) という国は、長い間いろんなプロセスを経て、United States になったのです。アメリカ人は、日本人とは違って、いろんなタイプの人が共存していますが、アメリカ人ということで、共通の考え方・文化を持っているという意識があります。アメリカ人が持つ夢はそれぞれ違う、それをすぐ実現できる保証もありません。その夢は遠い将来につながる夢であることもあります。大切なことは、夢を持つということです。私がアメリカの歴史を色々調べたとき、南北戦争のことも調べてみました。もちろん、リンカーン大統領はその時代の立役者でした。言ってみれば、リンカーンが United America の基礎を作りました。彼は最も尊敬されている大統領の一人だったと思います。強い政治的なリーダーであったということの他に、奴隷解放運動の立役者でもあり、忘れてはならない大統領の一人です。もし、アメリカが民主主義でなかったら、今日のようなアメリカが存在しなかったでしょう。アメリカは多種多様な人種が共存しているが、どの文化が劣っている、または優れているということは一切ありません。それぞれの文化がいい所を主張して、お互いが認め合うことによって、すばらしいアメリカというものが存在しています。アメリカには、自由と成功を夢みて、世界中から多くの人達が集まりました。しかし、実際アメリカで生活することは大変厳しいことです。一世代では夢を実現できないこともあるけれども、自分の子供に託す、その子供が実現できないときは、その孫に託す、そのように夢を求め続けること、それはとても大切なことだと思います。ですから、アメリカと言えど何を思い出すかという答えに、「自由の女神」はとても的を得ていると思います。なぜなら「自由の女神」を通して、アメリカの文化と言うものが理解してもらえと思うからです。

シャーマ (北大留学生)

こんにちは。私はスリランカから来ました。スリランカと言えば、まず皆さんは「スリランカ

ティー」(セイロンティー)を思い出すでしょう。1948 年までスリランカはイギリスの植民地でした。その当時は、セイロンと呼ばれていたもので「セイロンティー」でした。もともとスリランカに紅茶があったわけではなく、イギリス人が紅茶を紹介しました。だから、セイロンティーというのは、当時のイギリス人が付けた名前です。1948 年についてイギリスから独立して、国名を新たにスリランカと呼ぶようになりました。それで、現在は「スリランカティー」と呼ぶのが正式です。しかし、昔の呼び方を覚えている特に高齢の方たちは、世界中でいまだにセイロンティーと呼んでいます。私は誇りを持って皆様に教えたいのですが、スリランカは世界で最も多く紅茶を世界中に輸出している国として有名です。スリランカの国自体は非常に小さな国なのですが、紅茶の輸出量は世界に誇る量です。非常に美しい国ということでも自負しています。私たちは約 2500 年の歴史を持つ国としても誇りに思っています。その 2500 年の間に都市ができ、その歴史ある都市が今でも保存されている大変美しい国です。古い都市は保存都市として指定されています。観光産業も非常に重要な産業の一つです。私の出身地はキャンディーで、スリランカで 2 番目に大きな都市です。キャンディーでは寺院がとても有名です。非常に有名な仏像がその寺院の中にあります。ですから、私はそのような歴史的建造物のある都市の出身であることも誇りに思っています。あと、スリランカは、まだ工業化はされていないので、自然の緑が残されており。また、海岸線も非常に美しいことで有名です。ですから、自然を堪能したい方は、ぜひスリランカへお来ください。

マヘル・サギーエ (北大留学生のご主人)

私は 22 のアラビア諸国のうちのひとつレバノンから来ました。第一次世界大戦のときに、オスマン帝国 (今のトルコ) が支配していました。第一次世界大戦後、全部のアラブの諸国が自由の連邦国となるはずでした。しかし、イギリスとフランスはオスマン帝国を 2 つに分け、植民地としてしまいました。アメリカ国はテロリストだと思います。最初にアメリカ人はインディアンが所有していた国をのっとりしました。それから、アメリカの国を繁栄させるために、他の国から奴隷を連れて来ました。また、アリゾナ州やテキサス州はメキシコ領土であったのに、アメリカの領土にしてしまいました。そして、日本に原爆を落としました。アメリカは、石油など色々な資源を持っている国と友好関係を持ち支配しようとしています。そのような資源のある国に軍隊を駐在させて支配しようとしています。レバノンは過去 25 年間ずっと戦争に翻弄されています。イラク戦争問題もあり、国は分かれていくでしょう。アメリカはテロリストのやり方で、アラビア諸国の国を分けていっています。以前は、レバノンはとても綺麗な国でアラブの中のスイス、フランスのパリのような美しい国でした。今、アメリカのせいでレバノンにはほんの一部分しか美しい場所が残されておらず、いろいろな場所が破壊されてしまいました。

ダリル・ジョーンズ (札幌市 AET)

私はアメリカのカリフォルニア州サンフランシスコから来ました。サンフランシスコに来る機会がありましたらぜひいらしてください。大変美しい街です。私は自由と民主主義について話したいと思います。民主主義の基本は自由です。例えば、自分たちの指導者を自分たちで決めます。どうやってアメリカの情勢を動かすかも市民が決めます。どういった法律がアメリカを司るかを決める自由もあります。しかし、自由はあるが、常にその現状が自由であるとは限りません。長い間アメリカはイギリスの植民地であり、アメリカ国民はイギリスから自由を勝ち取りました。イギリスから独立した後、一人一人がイギリス政府の言う事を聞く義務を負わなくなり、宗教の自由も勝ち取りました。政治の主義も自分で決めます。自分の幸福を追求することも自分でできるようになりました。1861 年には、リンカーンによって、奴隷のための自由を勝ち取る南北戦争が始まりました。奴隷を自由にするのを、白人の人たちは賛成ではあ

りませんでした。公には南北戦争に多くの白人は反対していたものの、他人事ではなく、自分の考えとして、奴隷を自由にするべきだと考えている人も多くいました。今日、我々は自由をまるで当たり前のように受け止めていると思います。ところが、アメリカで今日大統領を選ぶ時、自分が選ぶという権利を持っているにも関わらず、選挙に行かない人々もいます。アメリカは多くの犠牲を払って自由を勝ち取ってきたのです。しかし、残念なことに現代の若い人たちは、勉強もしたくない、学校にも行きたくないという状況がひどくなっています。もし、私達が今日多くの人の犠牲によって勝ち取られた自由に感謝しなければ、私達は自由というものをドブに捨てるような結果を招くと思います。私達は自由というものを再認識する必要があります。私達は、何をするか、何を勝ち取るか、すべては、私達が持っている自由の中にあるのです。そのことを身体の隅々まで再認識する必要があると思います。また、自分のことだけではなく、他者に与えられることがあれば、他者に与えるということもとても大切だと思います。

ビジャイ・ギリ (北大留学生)

10月にネパールから来ました。機械工学を勉強しています。ネパールにはエベレスト山があります。世界で一番高い山です。また、ネパールは仏教のメッカで多くの巡礼者の方も来ます。ブッダはネパールのルンビーで生まれました。そしてインドで悟りを開きました。私が、どうして札幌にきたのかと言うと、北大の機械工学部は世界でも非常に有名だと聞いたからです。ネパールは世界でただ一つのヒンズー教の王制をとっている国です。ぜひ、ネパールを訪ねて自然の美しさを楽しんでください。山歩きやラフティング、カヌー、サファリもできます。世界で見られない珍しい動物や生物、鳥やチョウチョウもいます。



第2回

名古屋ボストン美術館の旅—参加者募集—

見どころたくさんの3日間—常滑焼～有松絞～白川郷～高山～馬籠—

愛知県から岐阜県、そして長野県へ

この度、「北海道から一番近いボストン—名古屋ボストン美術館の旅—」第2回をご案内いたします。名古屋ボストン美術館は、米国ボストン美術館の姉妹館として脚光を浴びているユニークな美術館です。2泊3日の旅ですが、会員の親睦も含め、きわめて欲張りで濃厚なこだわりの内容をもりこみました。

皆様の多数のご参加をお待ちしております。

1. 企画・実施 北海道・マサチューセッツ協会 (TEL 011-231-3392 FAX 011-231-3666)
2. 旅行取扱い (株)日本旅行北海道札幌支店 担当者 渡辺 健二
札幌市中央区南1条西4丁目日本旅行ビル
(TEL 011-208-0170 FAX 011-208-0174)
3. 期日・日程 平成16年10月6日(水)～8日(金) 日程表(別紙)
4. この企画の特色
 1. 1日目午前:名古屋ボストン美術館の特別見学(学芸員の特別講話・ビデオ鑑賞)—アメリカ近代絵画の傑作「アメリカモダニズム—オキーフとその時代」他—
 2. 1日目午後:朱泥の九須と登り窯で有名な「常滑」で一日陶芸家になります。そして、伊勢湾に沈む夕日を眺めながら、ゆったりとした時間を過ごします。
 3. 2日目午前:400年におよぶ江戸の粋を伝える伝統工芸・有松絞のルーツ「有松鳴海絞会館」を見学。この一帯には、東海道の古い町並みが保存されています。
 4. 2日目午後:ブルーノ・タウトの「日本美の再発見」で紹介された類まれなる伝統建築、世界遺産に指定されている合掌集落で有名な白川郷を訪ね、荻町合掌集落を歩きます。(岐阜県大野郡白川村荻町)
 5. 3日目午前:黒っぽい出格子の町家が続く、伝統工芸の技を受け継ぐ匠の町「高山」を散策します。「飛騨民族考古館」なども見学できます。(岐阜県高山市)
 6. 3日目午後:「木曽路はすべて山の中である」(「夜明け前」)で有名な木曽路最南に位置する島崎藤村の生まれ故郷の宿場町「馬籠」を散策します。そして昔は「馬籠宿」の本陣と問屋・庄屋を兼ねた家だった島崎家、現在の「藤村記念館」を見学すると、藤村の初恋の人「おゆうさん」のことや大黒屋のことなどすべてがわかります。(長野県木曽郡山口村神坂馬籠)
5. 経費 旅行費用 このこだわりの内容で62,800円
 - (1) 1泊目ホテルは2名1室予定。2泊目民宿は和室定員利用予定の代金です。
 - (2) 旅行費用に含まれるもの:往復航空運賃、貸切バス代(含高速料金)、名鉄料金、食事代(朝2回、昼3回、夜1回)、ホテル・民宿宿泊代、ボストン美術館入館料、常滑陶芸体験料、国内旅行保険料(一日目の夕食及び夜のみフリーです)
 - (3) 一日目の夕食は旅行代金に含まれておりませんので、ホテルチェックイン後は自由行動となります。
 - なお、非会員の場合は、できれば当協会に入会していただきたいと思います。(年会費 一般3,000円・学生1,500円)
6. 募集人員 先着30名(催行人員15名)
7. 申込期限 別紙の参加申込書により、平成16年8月31日(火)までに事務局にお申し込みください。申込時に、申込金10,000円をお振込ください。
なお、当協会にご入会いただける非会員の方は年会費一般3,000円・学生1,500円もお振込ください。

2004 第2回 名古屋ボストン美術館の旅 日程表 平成16年10月6日(水)～8日(金)

月／日 (曜日)	行 程								食 事							
									朝	昼	夜					
10／6 (水)	空港	JAL3100 便		名古屋		常滑観光										
	集合	新千歳空港	→	名古屋空港	＝	ボストン美術館	――	昼食…常滑陶芸体験…	ホテル		○	―				
	7:20	8:05	9:45	10:30	12:30	14:30	16:30 頃									
10／7 (木)	ホテル	＝		有松鳴海校会館	＝		昼食(弁当)	＝		白川郷散策	＝		民宿	○	○	○
	8:00	9:00	11:00		15:00			16:30								
10／8 (金)	民宿	＝		高山市内散策・昼食	＝		馬籠宿散策	＝		名古屋空港	→	新千歳空港	○	○		
	8:00	9:30	12:30	15:00	16:30	18:30 頃	20:00	21:35								

(記入例) ——→ 航空機 =====バス JAL: 日本航空 —— 名鉄常滑線

----- 切り取り線 -----

第2回 名古屋ボストン美術館の旅 参加申込書 (コピーしてご使用下さい)

☐ 会員 ☐ 非会員

(いずれかに✓を入れてください。)

お問い合わせ	〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館 12階
申込書送付先	北海道・マサチューセッツ協会 事務局
	TEL(011)231-3392 FAX (011) 231-3666

ふりがな			性 別	年 令		
氏 名			男・女	() 歳	職業	
ふりがな					電 話	
現 住 所					() —	
					FAX	
					() —	
勤 務 先 (学 校 名)	名 称				役 職 名 (学 年)	
	所 在 地					
	電 話 番 号	() —	FAX	() —		
同室希望者	お名前 () ()				喫煙の習慣: ☐ 有 ☐ 無	
申 込 時 の 振 込 額 (○で囲んで下さい)		(申込金 10,000円) (入会者年会費 3,000円)				
お振込先 (振込口座名) 北海道・マサチューセッツ協会						
北 洋 銀 行 道庁支店 (普通) 3031226 札 幌 銀 行 札幌駅前支店 (普通) 422325						
北 海 道 銀 行 道庁支店 (普通) 0545916 郵便振替口座 02710-4-47096						

ボストン「氷の江戸城」制作プロジェクトの実施概要

期 間 2003 年 12 月 25 日～31 日

場 所 米国マサチューセッツ州 ボストン市内のボストンコモン

事業内容

本事業は、米国マサチューセッツ州ボストン市 12 月 31 日恒例の一大イベント第 28 回「ファーストナイトボストン(First Night Boston)」プロジェクトの一つとして、ボストン日本協会(Japan Society of Boston 会長ピーター・グリーリ)と北海道・マサチューセッツ協会共同参加事業として実施したものであります。今回は、ボストン日本協会 100 周年事業の一つとして「氷の江戸城」大氷像を制作したもので、そのため北海道・マサチューセッツ協会から 3 名の氷彫刻家(加藤将栄氏・吉川恭一氏・工藤光寿氏)を派遣して共同制作にあたりました。制作氷像「江戸城」は、第 54 回さっぽろ雪まつり「江戸城」(高さ 15m)を参考にして、台座(一辺 8m の正方形)の上に正面幅約 5m、奥行約 5m、高さ約 5m の大きさとして設計されました。この事業は、約 5 万人のボストン市民が参加するといわれる「ファーストナイト」のオープニングを飾るものとなり、マサチューセッツ州と北海道の姉妹交流の絆をますます強化するものと期待されておりました。

「氷の江戸城」制作は、予定通り 12 月 25 日～31 日の期間に実施しましたが、ボストンの 12 月としては 29 年ぶりという異例の暖冬のため、残念ながら大氷像として最後まで完成することはできませんでした。しかし、共同制作にはボストン日本協会のピーター・グリーリ会長、イクコ・バーンズ氏、望月典子氏をはじめ、テクニカルディレクターのイアン・ホホワイト、大野周也、ディビッド・フィリップス氏他 MASS College of Art 関係の約 20 名のボストン在住の米国彫刻ボランティアスタッフの協力を得て、連日深夜に及ぶ共同作業として完成の一步手前までこぎつけたことは賞賛に値するものでした。そして何よりも日米友好親善の絆を確かなものとする大きな成果をあげることができました。現地の各テレビ局、新聞も、氷の江戸城等が次第に出来上がっていくその制作過程を毎日報じており、いやが上にも、ボストン市民の関心を集めました。

12 月 31 日当日早朝まではなんとかその威容を保っておりました。しかし、「ファーストナイト」の開会式の時点では、まことに残念なことに崩壊してしまったのでした。開会式挨拶では、メニーノボストン市長、西林在ボストン日本国総領事、グリーリボストン日本協会会長も、それぞれ本事業を高く評価する挨拶をされ、日米の彫刻家グループの労をねぎらって下さいました。国際親善の交流事業としては、大成功であったと言ってよいでしょう。

ボストン「氷の江戸城」制作プロジェクト

ご協賛ありがとうございました(敬称略)

岡島 英男	関 直彦	関 秀志
中川 義雄	金井 重博	藤林 巖
奥村 浩之	前野 正明	森本 正夫
佐藤 久夫	秋山 孝二	成田 貞子
針田 町子	山崎 秀樹	松江 昭夫
斉藤 守	中垣 正史	北川真智子
横路由美子	篠崎 史朗	
(株) シェンペクス	(株) 札幌セミナー	
(社) 北方圏センター	北海道新聞社	
伊藤組土建(株)	日本ボストン会	
(学) 北海学園	王子製紙(株)	
(学) 北海道浅井学園大学		
北海道庁総務部知事室国際課		
北海道空港(株)		



写真は未完成の「氷の江戸城」

事務局短信

コンコードカーライル高校プラスバンド 97 名いよいよ来道予定（9 日間）

アーサー・デュロン校長を団長とする一行 97 名（生徒 86 名、大人 11 名）は、4 月 14 日（水）来札、15 日（木）表敬訪問・札幌白石高校歓迎交流行事・合同練習・ホームステイ（2 泊）、16 日（金）リハーサル・合同演奏会 in Kitara・夕食交流会、17 日（土）札幌市内観光、18 日（日）離札・姉妹交流の七飯町へ。そして 22 日（木）離道の予定。

第 2 回米国セミナー開催予定：講師は米国大使館広報担当ヒュー・H・ハラ公使

5 月 11 日（火）、新年度理事会・総会終了後、第 2 回米国セミナーとして、米国大使館広報担当公使ヒュー・H・ハラ氏を東京からお迎えしまして特別講演会を予定しています。北方圏センター会議室（16:00～16:45）で開催いたします。多数の皆様のご参加をお待ちしております。（無料）

第 2 回ノーブルズ高校短期交換留学プログラムの先生・生徒一行来道予定（約 3 週間）

ノーブルズ高校グラハム先生と生徒 7 名が、6 月 11 日（金）～7 月 4 日（月）の日程で来道、札幌国際情報高校に短期留学します。その間、ホストファミリーとのさまざまな体験、また観光、さらに日本の古典芸能鑑賞（人形浄瑠璃）などの異文化体験もする予定です。6 月 26 日（土）には、当協会の国際交流ランチセミナーにゲスト出席。尺八のメアリー・エレン・ミラー先生、お琴のキャサリン・アヤカノ・リード先生と生徒の皆さんも出席される予定です。多数の皆様のご参加をお待ちしております。（参加費会員 2,000 円）

ボストン「氷の江戸城」制作プロジェクトのご協力、ご協賛金のお礼

この度のボストン「氷の江戸城」制作プロジェクトは、2004 新年を迎えるファーストナイトボストンのオープニングを飾る一大イベントでした。ボストン日本協会（Japan Society of Boston）創立 100 周年記念事業の一つとして、北海道・マサチューセッツ協会が共同制作したものです。

これは、北海道とマサチューセッツ州の姉妹交流を象徴するようなイベントを創出したいということで、昨年度以来、検討を重ねてきたところでありまして、当協会は、在札幌米国総領事館、札幌市観光課、すすきの観光協会、陸上自衛隊第 11 師団第 18 普通科連隊、HTB 北海道テレビ等のご協力のもとに、この事業を進めて参りました。事業の詳細は、9 頁の「実施概要」にまとめましたが、ほんとうに、各方面のご協力、ご協賛金をいただきましたこと、この紙面を借りてお礼申し上げます。

また REX プログラム（文科省初中教育局国際教育課の外国教育施設日本語指導教員派遣事業）により、ボストン市スノーデン高校に在職中の山崎秀樹先生（札幌拓北高校英語科教諭）には、この事業に対して、現地ボストンで連日連夜献身的なサポートをしていただきました。詳細な写真や記録もまとめていただいたのですが、紙面の都合上ご紹介できません。ここに厚くお礼申し上げます。

北海道総務部次長ご一行（4 名）マサチューセッツ州を訪問

道総務部次長・金野豊氏、道総務部知事室国際課長・越前雅裕氏、道教育庁生涯学習部生涯学習課長・西田憲史氏、道総務部知事室国際課主事・矢野奈緒子氏の 4 氏は、去る 2 月 9 日（月）～15 日（日）の間、米国マサチューセッツ州を訪問しました。（イラク戦争等により延期されていた訪問）

州政府・REX プログラム等の協議をはじめ、在ボストン日本国総領事館・UMASS アマースト校などの表敬訪問やマ州北海道協会ほか関連団体への挨拶・親善交流も深めてこられました。

デュカキスご夫妻一行 4 月に来札予定

元マサチューセッツ州知事（1990 年 2 月 7 日、北海道・マサチューセッツ州姉妹提携調印記念式典当時の知事）のデュカキスご夫妻一行 5 名が、来る 4 月 7 日（水）～10 日（土）の日程で来札されます。知事表敬訪問後、知事公館の庭に桜の記念植樹などをなさる予定になっています。

1987年(昭和62年)4月、キャサリン・デュカキス州知事夫人が来札の折、知事公館(横路知事の時代)にアメリカハナミズキを3本植樹されたのですが、その後、生育が順調に行かず、2002年(平成14年)にはすべて枯れてしまいました。それで今回は、北海道の気候風土に合うエゾヤマザクラの植樹ということになったようです。(来札日程の詳細は調整中)

新入会員紹介(2003年10月10日以降)

<個人会員> 澤向 祥文 棚橋 あさ子 高山 千鶴子 岡本 恵子 藤重 千秋

新企画ご案内 平成16年度 札幌を知る歴史発見の旅シリーズ(第2回) ——参加者募集!!

札幌農学校官舎跡・大友堀・時計台・大通公園散策コース——8月12日(木)実施します。

明治2年(1869年)開拓使設置により、北海道近代化の歴史の歯車は音を立てて動き出しました。今日、札幌市内各地に、その明治期の歴史遺跡を偲ぶことができます。ブルックスなどのお雇い外国人教師や新渡戸稲造、宮部金吾、有島武郎などが居住した札幌農学校(明治9年・1879年開校)の官舎跡。次いで、札幌開拓の先駆者・大友亀太郎像を見学します。大友亀太郎は、安政5年(1858年)蝦夷地に渡り、箱館奉行所の命で、木古内・鶴野(現在の七飯)の開拓にあたり、慶応2年(1866年)、32歳の時、札幌の元村(現在の元町)に入植し、今日の創成川の基となった大友堀を拓いたのです。北海道滞在13年間の後、開拓使に引き継いで明治3年(1870年)札幌を去りました。

それから、現在は、歴史博物館となっている時計台を見学します。最初は明治11年(1878年)、札幌農学校の演武場として建てられたものですが、後に、米国ボストンのハワード社製の時計塔が設置されて、明治14年(1881年)8月12日から時を刻み始めて今日に至っています。

さらに、札幌市庁舎内の初代判官島義勇像を拝し、大通公園1丁目から10丁目までのすばらしい彫刻群を訪ねます。大通10丁目には、明治4年(1871年)に米国農務長官の要職を辞して開拓使顧問として招かれたホーレス・ケブロン、そして彼を招聘した第3代開拓使長官黒田清隆の像があります。・・・今回はすばらしい歴史と美術の散策になります。そして最後は、札幌後楽園ホテル2Fレストラン「パティオ」での昼食茶話会となります。

日時・場所 平成16年8月12日(木)10時(ホテル「ニューオータニ札幌」入口前集合)
～14時30分(レストラン「パティオ」解散)

参加費 会員・学生 2,000円 一般 2,500円(資料代・入館料・昼食代他)

参加人数 先着20名(小雨の場合も実施します。)

参加申込み 事務局に TEL(231-3392)・FAX(231-3666)にて7月31日(金)までにお申し込みください。

**2005年(平成17年)は北海道・マサチューセッツ州姉妹提携15周年です。
15周年記念訪問団の派遣事業などを検討中です。**